

わらの沖縄あはれが沖縄

かたき土を破りて／激突死

かたき土を破りて TVドキュメンタリー 1971年 30分 カラー 監督:森口谿 制作:日本テレビ
激突死 TVドキュメンタリー 1978年 30分 カラー

沖繩にこだわり続けてきた森口作品。「かたき土を破りて」1970年12月、交通事故を起こした米兵の扱いをめぐってコザの市民の怒りが爆発した。コザ暴動（蜂起）である。いち早く現場に駆け付け住民の心の叫びを記録した。

『激突死』本土復帰の翌年、沖縄出身の青年が国会議事堂正門にオートバイで激突し即死した。上原安隆さん 26 歳。上原はなぜ死を選んだのか。フォーク歌手・海勢頭豊と森口谿は上原への熱思いを胸に、尋ね歩く。



女が男を守る島～久高島

ドキュメンタリー 1983年 45分 カラー
監督:北村皆雄 制作:ヴィジュアルフォークロア NTV

1978年のイザイホーを最後に、年間30を越す祭祀を担う神女が誕生しなくなった久高島だが、日々の祈りは続いている。久高にはオナ

リ(姉妹)神信仰に支えられたく女が男を守るという伝統的な考えがあるが、女たちの祈りに守られる男たちの一生をとらえた作品。



ユークイ～沖縄祈りの島 宮古・池間島

ドキュメンタリー 1974年 25分 カラー
監督:北村皆雄 制作:共同TV

ユー(世、豊饒)をクイ(乞う)は豊年を祈って島の51歳から55歳の女性がユークインマとして夜籠もりと御嶽回りをする。1985年に

断絶。その後何度か復活したが現在は行われていない。断絶以前の五人のツカサによる最後の秘祭を見ることができる。



カタバイー沖縄に生きるー

ドキュメンタリー 2017年度 80分 カラー
監督:ダニエル・ロベス 製作:テルマフィルム ククルビジョン

「カタバイ」とは沖縄の言葉で晴れている片方で降る雨のこと。世界中を旅したスイス人が13年間の沖縄での暮らし、出会った人々との縁を大切にしながらで誕生したドキュメンタリー映画。音楽・空手・琉球舞踊・町おこし……

様々な角度から見えてくる沖縄のアイデンティティ。急激な時代の变化的なかで、変わらない沖縄の心に迫る。ドイツ・台湾で満場の喝采を浴び、スイスでロングランを達成した。



© ククルビジョン

米軍が最も恐れた男 その名はカメジロー

ドキュメンタリー 2017年 107分 カラー(一部モノクロ)
監督:佐古忠彦 制作:TBSテレビ

「筑紫哲也NEWS23」でキャスターを務め、筑紫哲也氏の薫陶を受けた佐古忠彦初監督作品。坂本龍一によるオリジナル楽曲、語りには大杉漣が参加。米軍統治下の沖縄で"弾圧"を恐れず米軍にNOと叫び、「不屈」の精神で立ち向かった瀬長亀次郎。米軍は、様々な策略を巡

らすが、民衆に支えられて那覇市長、国会議員と立場を変えながら闘い続けた。「不屈」の精神は沖縄の「今」に脈々と繋がっている。亀次郎の知られざる実像と、信念を貫いた抵抗の人生を、福嶺元沖縄県知事など関係者の証言を通して、浮き彫りにしていく。



© TBSテレビ

ゆんたんざ沖縄

ドキュメンタリー 1987年 110分 カラー
監督:西山正啓 製作:シグロ

1945年4月、沖縄戦に突入した米軍が本島で最初に上陸したのが中部の読谷村であった。米軍上陸直後に起きたチビチリガマ集団自決(集団強制死)の惨劇。永い沈黙の時間を経て、村の人びとは犠牲者の慰霊に歩みを始める。同じころ学校の卒業式での「日の丸」掲揚が拡大、学校

長と教員さらに生徒との間で深刻な対立、亀裂が引き起こる。「本土」復帰15年、日本と沖縄の関係の問う「ゆんたんざ(読谷山)」の若者たちの姿をカメラは追う。



© SIGLO

オキナワの少年

劇映画 1983年 117m カラー
監督:新城卓 製作:バル企画

沖縄の米軍基地近くで売春バーを営む親と暮らす少年が、集団就職で本土に渡り、映画監督を目指す物語。

原作は東峰夫「オキナワの少年」(1971年芥川賞)。狭いポロ屋の隣室で性を売る女たちの喘ぎ声を聞く日々、宮森小爆撃機墜落事故で火だるま

になる生徒たち、米兵に轢き殺された祖母、本土復帰をめぐる社会の変動、コザ暴動、本土の人間たちから受ける差別、などなど、オキナワのナマの現実をオキナワの側から描くのに成功している。沖縄人の「想い」の側に立ちたい今だからこそ、必見のフィルム。



© バル企画

「ザ 思いやり」パート2～希望と行動編～

ドキュメンタリー 2017年 90m カラー
監督:リラン・バクレー 製作:平沢清一 リラン・バクレー 佐藤契

1978年、金丸信防衛庁長官が、米軍基地で働く日本人給与の一部(62億円)を日本が負担すると発表した記者会見で、法的根拠を問うた質問に「思いやりの立場」と答弁したことから「思いやり予算」と呼ばれ始めた。どんどん増額され、2014年度の予算額は1,848億円である。

1980年、高1で初めて来日したバクレー監督が、このいびつな日米関係をコミカルに問いかける。在日米軍は世界の戦場に出張ばかり?そこで何をしてるの?オキナワでも不条理ばかり。本当の「思いやり」をもって生きる人々の声を紹介している!



© Free Pacific Productions

海の彼方

ドキュメンタリー 2016年 123分 カラー
監督:黄嵐毓 製作:木林映画

日本の植民地時代、多くの台湾農民が八重山諸島に移住し、大地を開墾した。玉木家もそうした農民の一員であった。アジア・太平洋戦争が日本の敗北で終わった後、一度は台湾に帰ったものの苦しい生活を逃れるため、再び石垣島に戻り、その地に留まった玉木家の人びと。歴史

に翻弄されながらも生き抜いてきた玉代おばあは88歳の誕生日を前に故郷台湾の親戚を訪ねる旅に出る。帰島後の誕生日には100人を越える大家族が石垣に集い、おばあを祝う。忘れていたものを思い出させる珠玉の傑作。



© 2016 Moolin Films, Ltd.

パイナップルツアーズ

劇映画 1992年 118分 カラー
監督:真喜屋力、中江裕司、當間早志 製作:スコブル工房

礼束とともに島を襲う観光開発の嵐。沖縄のどある離島を舞台に、勢ぞろいした個性的な役者たちがくりひろげるドタバタ・オムニバス三部作。「何なんだ、これは?」と感じる方も少なくないであろうが、作品はカネと開発に翻弄さ

れる人びとの姿を通して、島の変容を描いていく。散りばめられた失われた島の風景や習俗は必見。くりかえし登場する謎のパイナップル・キャラクターは何を象徴するのか。真喜屋力監督のデビュー作である。



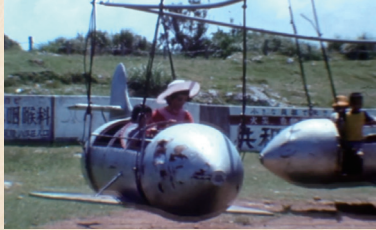
© スコブル工房

デジタルで甦る沖縄

ドキュメンタリー 2018年 90分 カラー
製作:沖縄アーカイブ研究所

昨年の練馬沖縄映画祭で好評を博した企画の第2弾。1950年代から70年代にかけて、沖縄で暮らしていた市井の人びとの手で撮られた貴重で懐かしい8ミリ映像の数々... もしかしたら埋もれ消えてしまったかもしれない沖縄の戦後の日々、風景、家族、お祭り、さまざま

な行事…二度と帰らぬあのととき、あのころ。現在進行形で進むデジタル化作業の中から、昨年の映画祭以降、新たに甦った映像を真喜屋力さんの解説で観る。東京では稀な上映、お見逃しなく。



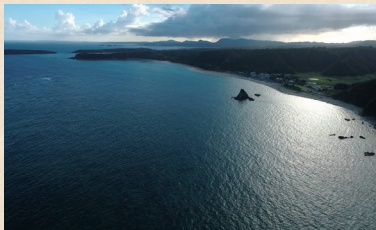
© 沖縄アーカイブ研究所

ZAN ジュゴンが姿を見せる時

ドキュメンタリー 2017年 73分 カラー
監督:リック・グレハム 製作:imageMILL

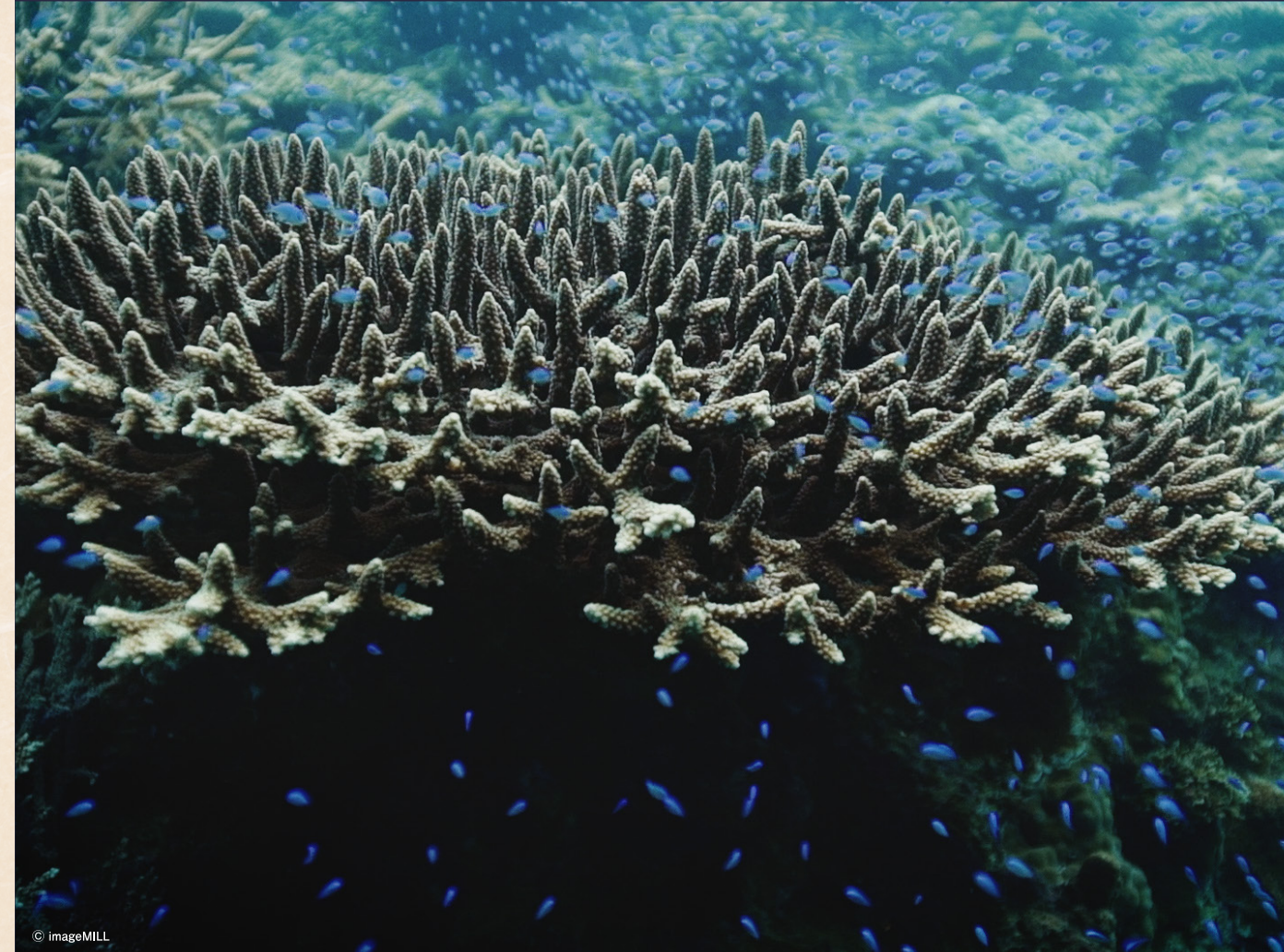
沖縄に生息する絶滅危惧種のジュゴンを見ようと訪れた先は辺野古。そこで目の当たりにしたのは、圧倒的な自然の美しさと、それを脅かす米軍基地建設だった。ジュゴンとはどのような生き物なのか。辺野古にはどのような生物が暮らしているのか。基地建設につい

て、自然保護団体、研究者、抗議活動に参加する市民、地元辺野古の住民は何を思っているのか。そして、私たちは何を守らなくてはいけないのか。沖縄の豊かな自然の中での様々な発見、体験を通してジュゴンが暮らすこの海と共に生きていくことの大切さを考える。



© imageMILL

わらの沖縄あつらひの沖縄



© imageMILL

9月22日(土) 武蔵大学江古田キャンパス1号館2階 1201教室(MAP③)
 トーク **14:30** 森口豁(ジャーナリスト) + 永田浩三(武蔵大学教授・元NHKプロデューサー) 参考上映 **14:45** かたき土を破りて **15:50** 激突死

9月24日(月・休) 練馬区役所 地下多目的会議室(MAP④)
11:00 女が男を守る島〜久高島〜 **11:45** ユークイ〜祈りの島 宮古・池間島 上映後トーク 北村皆雄 監督

14:00 カタバイー沖縄に生きるー 上映後トーク&ライブ 豊岡マッシー (三線)

9月29日(土) 生涯学習センターホール(MAP⑤) **米軍が最も恐れた男** その名はカメジロー

1回目 10:30 | **2回目 13:30** 上映後トーク 西江昭吾 (沖縄タイムス東京報道部長)

9月30日(日) Coconeri 3階 区民・産業プラザ研修室 2(MAP⑥)

18:45 ゆんたんざ沖縄 上映後トーク 小室等 (『ゆんたんざ沖縄』音楽)

10月4日(木) 日本大学芸術学部江古田キャンパス東棟地下1階 EB2教室(MAP⑦)

18:15 オキナワの少年 上映後トーク 新城卓監督+古賀太 (日大芸術学部教授)

10月7日(日) 練馬区役所 地下多目的会議室(MAP④) **10:15** 「ザ 思いやり」PART2〜希望と行動編〜

10月8日(月・休) 練馬区役所 地下多目的会議室(MAP④)

11:00 海の彼方 | **14:00** パイナップルツアーズ 上映後トーク 真喜屋力監督+代島治彦プロデューサー

17:45 デジタルで甦る8ミリの沖縄 上映後トーク 真喜屋力

10月12日(金) 大泉学園ゆめりあホール(MAP⑧)

18:45 ZAN ジュゴンが姿を見せる時

上映後トーク リック・グレハン監督+木佐美有プロデューサー

- 開場は各上映の15分前です。 ●会場が定員に達した際には、当日券の発売を行わない場合があります。
- やむを得ない事情によりゲストが変更になる場合があります。
- 製作から長い年月を経ている作品は、映像が傷んでいる箇所があります。

★チケット

大人 前売 **1,000円** 当日**1,200円**

18歳以下・ハンデのある方 **800円**

3枚綴りチケット **2,700円**

武蔵大学、日大芸術学部での上映の際は各大学の学生は無料です。

前売りチケット購入方法

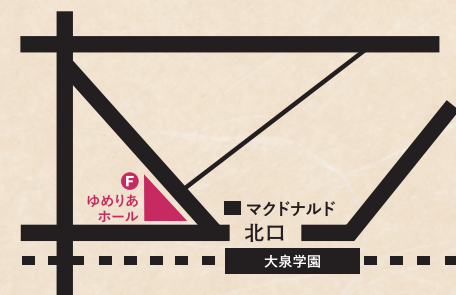
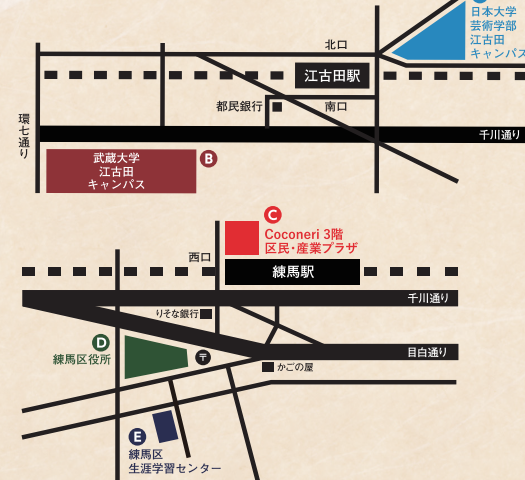
・ご予約をメール・FAX・電話・Face Bookで受け付けています。
 ご予約をいただいた場合は、当日会場の受付で代金と引き換えでチケットをお渡します。

メール nerimaigasai@yahoo.co.jp
 FAX 020-4663-6528 電話 090-8311-6678(柏木)



チケットぴあ pia.jp/t
 0570-02-9999
 Pコード:558825

MAP



9月
 22日(土) 武蔵大学江古田キャンパス1号館2階1201教室
 24日(月・休) 練馬区役所 地下多目的会議室
 29日(土) 生涯学習センターホール
 30日(日) Coconeri 3階 区民・産業プラザ研修室 2

10月
 4日(木) 日本大学芸術学部江古田キャンパス 東棟地下1階 EB2教室
 7日(日)・8日(月・休) 練馬区役所 地下多目的会議室
 12日(金) 大泉学園ゆめりあホール